

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	タクシー運転手	・新年会の開催に加え、北陸最大級の複合商業施設がオープンした影響でタクシー利用が増える。
		通信会社（営業担当）	・ポ・ナス時期に入り購買意欲の向上に加え、新機種の在庫増により品切れが解消し、コンスタントな販売上昇が見込める。
	やや良くなる	百貨店（営業担当）	・隣の駅前に北陸最大級の商業施設が11月にオープンし、これに合わせバス会社やJRなどの公共交通機関が買物客の利便を図るため増発している。このような動きが北陸全体の消費を活性化させ、全体のパイは増える。
		スーパー（店長）	・野菜等の価格が年末に向けて上昇気味である。9～10月は天候が良かったため前倒しして入荷したが、12月になると入荷量が減少する可能性がある。このため、客単価が上がり、売上の上昇につながる。
		乗用車販売店（総務担当）	・12月には新型車が新たに投入される。利益車種でもあり、見込客からも期待が大きい。また来春にも量販車種のモデルチェンジが控えているため、販売台数の拡大が期待できる。
		その他専門店〔医薬品〕（営業担当）	・新製品を始め、効果の期待できる健康食品があれば、客の手は伸びる。景気は決して鈍っていない。ただ、客が欲しい物しか買わないという動きはここ1年間変わっていない。
		通信会社（営業担当）	・本格的な冬商戦を迎え、新規客の獲得拡大に向けて、新しい料金プランなど様々なキャンペーンや新サービスを開始する予定である。来客数や販売台数の増加に期待が持てる。
		住宅販売会社（従業員）	・景気は「いざなぎ景気」を超えたともいわれているが、実感のない回復局面が続いている。しかし、客の動きを見ると不動産購入の意欲が高まりつつあり、来客数が徐々に増加しているため、今後の受注増加に期待できる。
		変わらない	一般小売店〔事務用品〕（営業担当）
	百貨店（営業担当）		・12月に雪が降り、冷え込めば、コートなどの重衣料が売れ出す。1か月後にはクリアランスの時期となるため、客の購買意欲はなかなか上昇しない。
	百貨店（売場担当）		・歳末ギフトやクリスマス関連商品について、客から「買おう」という強い意欲が伝わってこない。
	スーパー（店長）		・おせち料理は数量的に増加しても、安い商品を中心に動くため、売上は年々落ちている。一般家庭では暖冬のため灯油使用量が減少するかもしれないが、ガソリン代が増加しており、その分食品の消費に影響が出る。
	スーパー（営業担当）		・売上は前年並みか若干下回る状態で推移しているが、競合他社が多く出店し、飽和状態となっている現状では売上はなかなか増えない。
	コンビニ（経営者）		・今月も道路沿いに他のチェーン店がオープンしたため、今後の売上は良くならない。
	コンビニ（経営者）		・近隣の工事状況や競合店の立地状況共に、当分変わらない。
	家電量販店（経営者）		・パソコンの販売が相変わらず不振である。特にプリンター、パソコンソフトなどの関連商品も全く不調で、1月発売の新基本ソフトに期待がかかるものの、先行きははっきりしない。
	乗用車販売店（経理担当）		・来年1月に新型車が発売されるため、それ以降に期待が持てる。
	乗用車販売店（営業担当）		・軽自動車は伸びているが、車全体では低迷しており、このようなトレンドが続く。
	その他専門店〔酒〕（経営者）		・歳暮シーズンが始まり、少しは活気が出るが、以前の歳暮と比較すれば雲泥の差がある。
高級レストラン（スタッフ）	・10月から飲酒運転に対する社会問題がクローズアップされ、忘年会予約の受注が悪かったが、現在は例年並みの受注状況で推移している。		
スナック（経営者）	・企業関係の客からは「来年は減速」という話がよく聞かれ、当店でもこのような状態が続くと予想される。		
観光型旅館（経営者）	・個人客を中心に予約件数は増えているものの、全体では団体客の減少から前年比でダウンする。		
観光型旅館（スタッフ）	・2月までの予約状況は前年を上回っている。		

	タクシー運転手	・客から「新聞では景気回復といわれるが、自分の懐は一向に良くなっていない」との話がよく聞かれ、このままの状態が続く。	
	通信会社（役員）	・12～1月は年末、年始をケーブルテレビで楽しみたいという例年どおりの需要増に期待したいが、予断を許さない。	
	テーマパーク（職員）	・大口の団体予約はあるが、依然として募集ツアーやパーソナル企画の個人客の動きが鈍いため、全体の利用客数は前年に比べ横ばいと予想される。	
	パチンコ店（店員）	・来年6月以降は人気機種が撤去されるため、売上、粗利の見通しが難しいが、ここしばらくは現状維持で推移する。	
	住宅販売会社（従業員）	・住宅は総量的に変わらないが、内容が良くなっており、現在の堅調な状態が今後も続く。	
やや悪くなる	商店街（代表者）	・ボーナスが期待できる企業はごく一部にとどまり、中小の企業では支給されない企業も多いと聞く。商店街への出店も、年内は控えて来年以降にするという話をよく耳にする。大型プロジェクトも数件始まるようであるが、効果が出るにはまだまだ時間が掛かりそうである。	
	一般小売店〔書籍〕（店長）	・年末年始の商材の動きは前年より鈍く、売上も同じように減少しており、この傾向は今後も続く。	
	百貨店（売場主任）	・市場規模を上回るオーバーショップ状態である。店ごとの格差がますます広がりがつつあり、依然として効率だけを追い求める販売状態が続く。	
	百貨店（営業担当）	・近隣の大型店の出店により、客足がかなり減少している。店の固定客は徐々に戻ってきているが、2、3か月先のセール期に入ると、来客数の減少が予想される。	
	コンビニ（経営者）	・今年行われた野球やサッカーのワールドカップ関連のグッズの販売など、大型キャンペーンやイベントの予定がなく、このままでは若干悪くなる。	
	乗用車販売店（経営者）	・業界全体としてはやはり後退傾向とみている。実用的な経済車は売れているが、全体を潤すほどでもなく、中古車をけん引してきた若者や高齢層も経済的な大衆車（軽自動車を含む）の新車を選ぶ傾向にある。	
	住関連専門店（店長）	・今後も需要の減少とともに、競合店の出店が予定されており、厳しい状況が続く。	
	通信会社（社員）	・携帯電話の番号ポータビリティの需要が落ち着いてくる。	
	住宅販売会社（従業員）	・来場者数の減少に加え、客からの要望単価が厳しく、相次ぐ資材の高騰もあって折り合いがつかない。	
悪くなる	コンビニ（店長）	・単価の高い非食品や玩具などは全く売れず、今後ますます悪化する。	
企業動向関連	良くなる	-	
	やや良くなる	通信業（営業担当）	・I P電話の信頼性が揺らいでいることもあり、通信機器などで客の買い控えが若干出てきているものの、全体としてI P化の動きは進んでいく。
	変わらない	繊維工業（経営者）	・海外からの輸入品に対し、すみ分けした物づくりをしっかりと強化することが求められる。
		プラスチック製品製造業（企画担当）	・原料価格は落ち着いており、当面は現状のまま推移する。
		一般機械器具製造業（経営者）	・数字的には好調な状態が継続しているが、最近の引き合いや成約ベースでは今年の上半期（4～9月）に比べ、10～15%の減少となっている。
		精密機械器具製造業（経営者）	・年内の眼鏡受注残がゼロのメーカーが見られる一方で、来年4月ごろまでの受注が既に埋まっているメーカーもあるなど、バラツキが見られる。今後2、3か月は量的には増える傾向にあるが、これは従来の季節的要因の範囲内であり、依然として厳しい状況が続く。
		金融業（融資担当）	・製紙業界及び木材業界ではロシア材などの需給状況が厳しい。原油価格が高止まりし、苦しい状態が続いており、これを販売価格に跳ね返せるかどうか予断を許さない。
		新聞販売店〔広告〕（従業員）	・先行きは不透明であるが、新規オープン店舗からの受注が入るため横ばいで推移する可能性が高い。
		司法書士	・高収益を上げている企業がある一方で、出資法・貸金業法の改正により、表面に出てくる多重債務者の増加が予想される。
やや悪くなる		電気機械器具製造業（経理担当）	・電子部品の在庫調整があるとの情報があり、現実に受注量や新製品の動きも鈍い。

		建設業（経営者）	・今月、地元の建設業者が自己破産したが、ダンピングでの受注も破たん原因の一つとされている。年度末の来年3月にかけて、ダンピングまがいの低価格で受注した工事が完成を迎える業者にとっては、資金繰りが相当苦しくなり、倒産の多発が懸念される。
		輸送業（配車担当）	・今後、燃料費の急激な低下は考えられず、また他の経費の削減も難しい。さらに人手不足も深刻な状態で、採用難の現状から仕事があっても受け切れない。
	悪くなる	建設業（総務担当）	・し烈な受注競争のなかで、工事量を確保するためには工事粗利益を下げて対応せざるを得ず、先行きは依然厳しさを増す。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・派遣社員、正社員を問わず、企業の求人意欲は依然として高いが、正社員採用の際は人材を吟味しているため、採用増はあまり期待できない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・新規の出店計画の情報が今のところ聞かれない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・有効求人倍率は好調に推移している半面、民間企業の広告量が伸び悩んでおり、両方の要素に大きな変化はない。
		職業安定所（職員）	・新規求人に対する正社員の割合は、前年度に比べ徐々に高まってきたが、最近では一服感がある。
		民間職業紹介機関（経営者）	・新卒採用はおおむね終了し、企業には充足感がある。また人材派遣、紹介の技術者、経験者の依頼については募集しても人材が集まらない状況が続いている。
やや悪くなる	-	-	
悪くなる	-	-	